

平成 31 年 1 月 19 日 マイスターネット講演会「地球最後の秘境 パプアニューギニア」

太平洋農業アライアンス 代表理事 志柿俊朗

私は 2010 年から 2016 年までの 6 年間、パプアニューギニア国立農業研究所の植物病理学主任研究員として、同国内の様々な地域を訪れ、現地の人たちと話す機会を得ました。日本の組織からの派遣ではなく、現地の政府組織による直接雇用であったため、社会の一員としての意識がありましたし、国連の条約の国家代表を務めさせていただくというかなりユニークな体験もしました。

パプアニューギニアは良くも悪くもまだ文化の国際標準化の波は届いておらず、他の国々との比較対象としては魅力的な国です。今年は首都ポートモレスビーで APEC 総会が開催され、関心を持たれた方も多いと思いますが、物価の高いパプアニューギニアには観光客も稀で、治安も良くないため、簡単に旅行のできる国ではありません。

この講演では、パプアニューギニアでの私の植物病理学者としての仕事、手つかずの自然、暖かい人々の心、そしてちょっと危ない文化などについて、マイスターネットの皆様にお話ししたいと思います。

---

#### 講師略歴

1957 年熊本市生まれ。

奈良高校、富山大学（物理学）卒業。

1980 年富山大学卒業後、愛知県岡崎市で公立学校教諭。（中学校理科で受験したのに小学校に赴任となり慌てました。愛知県では経験を積ませるためその様になっているとのこと。知っていたら高校理科を受けたのに、、、音楽の授業は苦痛でした。小学校の免許は持っていませんでしたが、臨時免許という便利な制度がありました。いい加減なものです。ただし、町田の玉川大学の通信教育で免許を取らせていただきました。就職活動では他に茅ヶ崎の ULVAC に面接で落とされました。日本ユニシスに内定をもらいましたがこちらは辞退。）

1981 年～1983 年、青年海外協力隊員としてケニアで理数科教師、その時農業の重要性を目の当たりにしてアメリカで農業の勉強をすることを決意。

1985～1989 年、愛知県教員を退職、名古屋市で学習塾勤務。これは午前中英語の勉強と学

資捻出のため。(2年程度で必要な TOEFL スコアを達成、学資も蓄えたが、学習塾の仕事が面白くなり、職場の雰囲気も良かったので4年以上長居をしてしまった。その時たまたまアメリカの大学で日本語を教えれば、学費・生活費が支給されるといういい制度が出来たのを知り、応募し合格。(この制度を行っている団体は Alex Foundation といって、現在も存続、私は第2期生。)

1991年、ワイオミング大学(植物病理学修士)卒業。

1996年、ハワイ大学(植物病理学博士)卒業。

1996年~2010年、オクラホマ州ノーブル財団研究所とテキサス州ベイラー医科大学で研究員。その間2007年に1年間インド高等科学研究所で客員教授。

2010年~2016年、パプアニューギニア国立農業研究所主任研究員。その間パプアニューギニア国種子に関する国際条約(ITPGRFA)の初代同国代表を務める。

2016年~現在、太平洋農業アライアンス代表理事、東京大学特任研究員、ニッポンジーン(富山市)アドバイザー、BlueNalu(カリフォルニア州)アドバイザー等。

---

## 本日の講演内容

### 1. パプアニューギニアの概要

パプアニューギニアは南西太平洋地域にあり、ニューギニア島の東半分と周辺の島々からなる国です。文化の多様性だけでなく、生物の多様性も誇る国で、ビーチやサンゴ礁でも有名です。内陸部には活火山の他、花崗岩のヴィルヘルム山、草木の生い茂る熱帯雨林、ココダトレイルといったハイキングルートもあります。また、伝統的な部族の村も残っており、その多くは独自の言語を持っています。

首都：ポートモレスビー

通貨：キナ(本日現在 32.66円)

人口：825.1万(2017年)

### 2. パプアニューギニアで行ったプロジェクト

アイビカとサツマイモの改良 (EMSと重イオンビームによる)

(EUから約1億円の資金を獲得して4年間にわたって、パプアニューギニアとソロモンで実施しました。主に突然変異による品種改良の技術を使いました。)

ブーゲンビルでの鉱毒対策とサゴヤシ復活 (現在進行中)

(ブーゲンビルは今年独立を宣言するかもしれません。そういう意味でブーゲン

ビルとの関係を良好に保っておくことは重要と思います。カカオなどの熱帯産の食糧の供給源としても重要です。）

### 3. 国連パプアニューギニア代表として

（パプアニューギニアは2015年に種子に関する条約に批准、その初代代表として国連の会議で交渉にあたる。日本国民が他の国の方針を決めるというのは変な話です。でもいい経験をさせていただきました。）

### 4. 2018年3月と9月の調査の様様

（ブーゲンビルのプロジェクトは本年5月に終了するのですが、その後の活動資金については不透明です。9月の調査では太平洋農業アライアンスとして、現地のフェスティバルでブースを出しました。反応は大変良好で、現地の人たちはプロジェクトの継続を望んでいます。）